

事 務 事 業 評 価

平成 27 年度

担当課 学校教育課

基本事項	事務事業名	中学生海外訪問交流事業				整理番号	2209	
	根拠法令等	島原市中学生海外訪問交流事業実施要項			実施を義務付ける規定	○あり ●なし		
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	予 算 目	10 款 1 項 2 目	●継続 ○新規			
		節 第2節 義務教育の充実	事 業 区 分	市民サービス事業				
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	雲仙岳噴火災害で、気持ちが沈みがちだった中学生を励ますことを目的に、韓国への訪問が実施されたのが、始まりである。平成6年度から15年間、韓国との交流を実施していたが、平成22年度～24年度は中国上海市、25年度・26年度はシンガポールと訪問地を変え、27年度から訪問地を香港とし、現在に至っている。				計 画 期 間	始 期 平成 6 年度から 終 期 平成 年度まで	
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目 的 (どのような状態にしたいのか)	将来の島原市を担う心身ともにたくましい人材の育成を目指し、本市中学生に夏季休業中を活用した海外の教育関係施設やジオパークの見学及び現地中学生との交流活動を通して、英語学習への興味、関心を高めさせるとともに、国際的視野の拡大と国際親善に努める素地を培う。						
	目的達成のための 具体的手段・方法	①本事業目的に対して、市内5中学校の意欲的でより優れた生徒を派遣するために、書類、面接による選考を実施している。 ②訪問前に現地の生徒との活気ある交流をめざして、ジオ学習や英会話学習を取り入れた事前研修を3回実施している。また、訪問後に報告会を開催し、本事業を通して、学んだことや今後に生かしたいことを発表している。						
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 (内 容)		単 位	25 年度	26 年度	27 年度	
		①事前学習会を3回実施する。参加生徒の目的意識を高め、より効果的な訪問交流にするため、事前学習会を実施する。	目 標	回	3	3	3	
			実 績	回	3	3	3	
達 成 率			%	100.0	100.0	100.0		
②生徒、保護者へアンケートを実施し、4段階評価において「たいへんよかった」が80%以上となることを目指す。	目 標	%	80	80	80			
	実 績	%	93.3	93.3	100			
	達 成 率	%	116.6	116.6	125.0			
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	①中学校英語教師や島原半島ジオパーク協議会による講義・演習の実施	目 標	回	英会話研修実施	英会話研修実施	2回計画		
		実 績	回	2回実施	2回実施	2回実施		
	②本事業の計画に対する意見や感想を生徒とその保護者からアンケートをとる。	目 標	回	アンケートの実施	アンケートの実施	アンケートの実施		
		実 績	回	実施済み	実施済み	実施済み		
事業費等の推移	年度		23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画
	① 直接事業費(千円)		2,234	2,289	4,708	5,045	4,522	4,522
	財源内訳	国 県 支 出 金	1,787	1,830	1,878	1,878	1,878	1,878
		地 方 債						
		そ の 他			450	450	450	450
		一 般 財 源	447	459	2,380	2,717	2,194	2,194
	② 従事職員給与費 b1×b2		1,085	1,092	1,082	1,098	1,116	0
	従事職員数(人) b1		0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
	職員平均人件費 b2		7,236	7,277	7,213	7,317	7,438	
事業費合計 ① + ②		3,319	3,381	5,790	6,143	5,638	4,522	

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている これまでのアンケート結果から事業の継続を願う声が多いが、本年度の香港訪問の応募数は昨年より減少した。	判定 B
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 ただ、個人負担が増えると考え。(現在一人あたり3万円)	B
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 現地での効果的な交流を考えると中学3年生が望ましい。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 事前学習だけでなく、礼儀やマナーの指導も加え、現地交流先とも連絡を十分に取っ合い、綿密な計画を進めている。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 現地学生との交流内容を検討しながら、向上させる余地はある。	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 事業終了後、生徒自身の進路決定の一助になったり、学校生活でさらにリーダー性が増したと聞く。	B
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 各学校で実施している職場体験学習と併せて、海外での様々な体験に本事業の意義があると思われる。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある ジオ学習を全面出すのであれば、ジオパーク協議会が主として担当するのが望ましい。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 訪問団全員が過不足なく体験できている。また、参加者は3万円自己負担としているが、負担が大きいとの声は出ていない。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			2.50

◎ 総合自己評価（所管部署）

評価結果	<input type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input checked="" type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	判断理由	香港とのジオパーク協力協定を最優先し、本市のジオパークを推進していくのであれば、事業内容を見直し、香港同様、ジオ学習のための研修訪問としてどうかと考える。
	今後の課題及び改善策、見直しの状況 (実施上の課題等) どの担当部署が主として計画・推進していくか。		・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。

【2次評価】

総合判定	B3見直しのうえで実施 ⇒ 事業内容の改善
備考	訪問先を変えることで一人当たりのコスト削減を図るなど、出来るだけ多くの生徒が参加できるような方策を検討する必要がある。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況

① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input checked="" type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	